

1 学校事務職員の採用方法の見直しについて

(1)現在の宮城県職員(事務職員)の採用方法

試験	任命権者	大卒程度	短大卒程度	高卒程度
人事委員会	教育委員会		○	○
	知事部局	○		○
	県警察本部	○		○

(2)学校事務職員の人財育成上の主な課題

- ① 庶務業務に関する知識や経験はあるが、知事部局と比較して、新たな経験を積む機会が少ない。
- ② 経験値に固執するあまり、業務全体の効率化や改善などが進まない。

(3)採用一本化により期待できる効果

- ① 知事部局も含めた幅広い職域となり、多種多様な業務が経験可能。
- ② 知事部局での経験で、行政的視点で学校事務に取り組める。
- ③ 知事部局としても、配属先に県立学校等を含むことで職域が広がり、財務・経理的業務を経験させる場としての活用が見込め、中長期的な人財育成を進める上で有効。

2 他都道府県の状況

(1)採用一本化の実施状況

	実施状況
採用一本化	38都府県(80.9%)
個別採用	9道県(19.1%)

(2)実施都府県の声

- ① 知事部局に勤務することで、様々な経験を積み、広い視野で業務に当たることが可能になった。
- ② 多様な職場での広範な業務経験により、将来、知事部局や教育庁、県立学校での活躍につながった。
- ③ 県立学校に行政経験を持った職員を配置することで、学校運営だけでなく県行政全般の視点を持った職員の経験を活かした。

3 高等学校卒業程度採用試験の採用一本化について

	高等学校卒業程度 採用試験	
	見直し前(現行)	見直し後
知事部局	一般事務	一般事務 市町村立小中学校事務
事務局・県立学校	学校事務	
市町村立小中学校		

4 見直しの時期

令和8年4月採用(令和7年度実施採用試験)から。

1 経緯

令和2年7月に発表した「第3期県立高校将来構想第1次実施計画」に基づき、南部地区の専門高校を再編し、令和5年4月に新たな職業教育拠点校である大河原産業高等学校を新設した。この再編により、大河原商業高等学校と柴田農林高等学校は、両校の全日制課程は令和5年度から、大河原商業高等学校の定時制課程は令和4年度から募集停止を行い、令和7年3月末をもって閉校するもの。

大河原商業高等学校は、大正11年の開校以来、仙南唯一の商業教育の拠点として、柴田農林高等学校は、明治41年の開校以来、農業教育の拠点として、長い歴史と伝統を有し、多くの有為な人材を輩出するとともに、地域に根ざした取組を積極的に続けてきた。

2 閉校式の実施について

各校の卒業式に引き続き、地域の方々や、同窓会、PTA関係者に御出席いただき、閉校式を実施する。

(1) 大河原商業高等学校

- ・日時 令和7年3月1日(土)
正午から午後0時40分まで
- ・場所 大河原商業高等学校体育館
- ・主催 宮城県教育委員会

(2) 柴田農林高等学校

- ・日時 令和7年3月1日(土)
午後2時30分から午後3時10分まで
- ・場所 柴田農林高等学校体育館
- ・主催 宮城県教育委員会

3 沿革

(1) 大河原商業高等学校

大正11年	大河原町立実科高等女学校創立
大正13年	宮城県大河原実科高等女学校と改称
昭和17年	宮城県大河原中学(高2卒業後4ヵ年夜間授業)開校
昭和18年	宮城県大河原高等女学校と改称、宮城県大河原中学校設立認可
昭和22年	宮城県大河原中学校、宮城県大河原高等女学校 現在地に移転
昭和23年	宮城県大河原中学校と宮城県大河原高等女学校合併、宮城県大河原高等学校の設立認可
昭和28年	宮城県柴田高等学校普通部が分離独立して宮城県大河原高等学校と改称
昭和31年	商業科・家庭科設置認可
昭和41年	家政科募集停止
昭和46年	情報処理科設置、普通科募集停止
昭和48年	宮城県大河原商業高等学校と改称(営業科・情報処理科・商業科)
平成6年	学科を改編し、営業科が流通経済科となる。
平成12年	学科を改編し、流通マネジメント科、情報システム科、OA会計科となる。
平成19年	定時制課程が白石高等学校定時制と統合
令和3年	創立100周年記念式典
令和7年	閉校

(2) 柴田農林高等学校

明治41年	柴田郡立蚕業講習所創立
大正12年	県立に移管し、宮城県柴田農学校と改称
大正15年	宮城県柴田農林学校と改称
昭和23年	学制改革により宮城県柴田農林高等学校と改称 全日制課程農業科・林業科設置、定時制課程設置
昭和29年	畜産科設置
昭和35年	農業土木科設置
昭和47年	緑地工学科設置
平成7年	学科を改編し、農業科学科・動物科学科・森林科学科・環境デザイン科・土木科の5学科とし、各学科で男女募集する。
平成18年	学科を改編し、食農科学科、動物科学科、森林環境科、園芸工学科の4学科とし、男女及びくくり募集を行い、土木科の募集を停止した。
平成20年	創立100周年記念式典
令和7年	閉校

1 日程変更の目的

- 知的障害のある生徒の進路希望の実現と適正な就学を図ることを目的とするもの。

2 現状

- 知的障害高等部と高等学園の一次選考日を同日設定
令和7年度(令和6年度実施)選考日:令和7年1月16日(木)
- ☞ 高等学園不合格の場合
→定員に満たない高等学園・高等部の二次選考
→二次実施校が不確定 → 高等学園受検を躊躇

3 内容

- 高等学園の一次・二次選考と合格発表を実施後に、知的障害高等部の一次選考を実施するよう変更するもの。

期日(予定)	実施内容
令和7年12月10日(水)	高等学園一次選考
12月15日(月)	高等学園一次合格発表
令和8年 1月 8日(木)	高等学園二次選考
1月13日(火)	高等学園二次合格発表
1月15日(木)	高等部一次選考
1月21日(水)	高等部一次合格発表
1月23日(金)	高等部二次選考及び合格発表

4 これまでの経過と今後の予定

時期	実施内容等
令和6年 3月	県立特別支援学校高等部・高等学園入学者選考に関する検討委員会で検討
8月	第1回県特別支援教育将来構想審議会に報告 各教育事務所、各市町村教育委員会へ説明
9月	入学者選考事務説明会(県内5か所)で説明
10月	中学校担当者向けオンライン説明会① 高等学園等合同学校説明会で説明
12月	中学校担当者向けオンライン説明会②
令和7年 2月	第3回県特別支援教育将来構想審議会に報告 2月教育委員会に報告 県立学校長会議で説明 特別支援学校長会議で説明 各中学校へ通知